

CONTENTS

企画展 宣書和解御用と津山藩の洋学者	2
ワークショップ 薬草・ハーブの説明会を開催!!	3
津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム	4
友の会のページ	5
企画展 幕末維新を駆け抜けた女医 光後玉江	6
日本英学史学会誘致開催	7
第66回文化講演会報告	8
資料館展示品から	9
NEWS FILE	10
INFORMATION 〈催し物のご案内〉	12

洋学 資料館

No. 6
February, 2012

洋学者宇田川家三代墓所

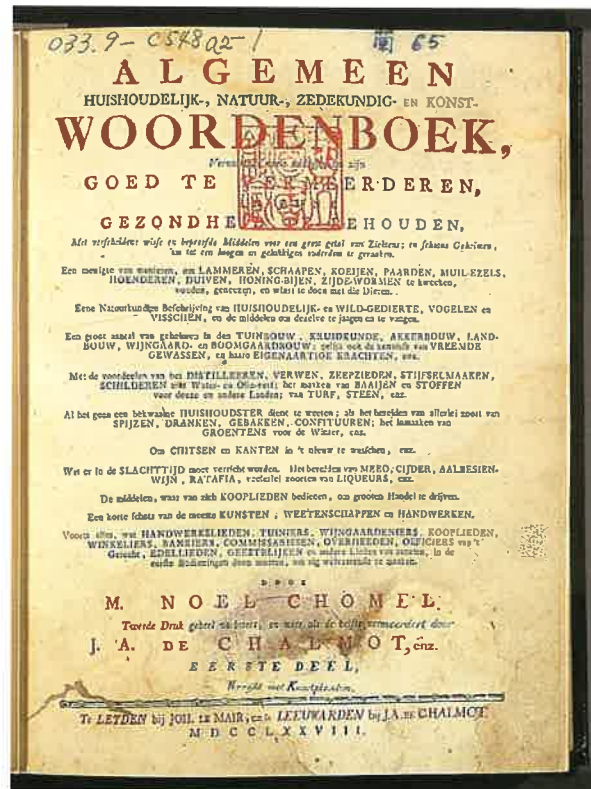
津山藩主 松平家 菩提所
浄土宗
天崇山
泰安寺

津山市西寺町の泰安寺です。

ここには、玄随・玄真・裕菴の宇田川家三代の墓所があります。宇田川家墓所はもともと浅草の菩提寺にあり、関東大震災の後、多磨霊園に移されました。しかし近年墓所の管理が難しくなったことから、市民有志によって結成された「宇田川家三代顕彰実行委員会」が、墓所を津山へ改葬し、平成元年11月に開眼披露法要が行われました。



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING



(国立国会図書館所蔵)



(静岡県立中央図書館所蔵)

蛮書和解御用で翻訳されたシヨメール百科事典（左）と翻訳原稿「厚生新編」

この企画展の開催にあたり、ご協力いただいた関係各位の皆さま、そしてご覧くださった多くの入館者の皆さまに、心から御礼申し上げます。ありがとうございました。



日本の大学の中で最高位の大学といえば東京大学ですが、その前身が津山と深い関わりを持つていることをご存じでしょうか？

東京大学の前身は、1811（文化8）年、江戸幕府の天文方に創設された蛮書和解御用というものです。オランダを通してもたらされた西洋の書物（当時は「蛮書」と呼ばれました）を翻訳（＝和解）する役所でした。2011年でちょうど創設200周年に当たるのを記念して昨年に開催したのが、この企画展です。

この蛮書和解御用では、さまざまな洋書が翻訳されましたが、その中でも特に重要だったのが、シヨメール百科事典の翻訳です。フランスのシヨメールという学者がまとめたこの百科事典は、とても実用的で豊富な内容が好評を得て、西洋各国の言葉に翻訳されました。この事典を和訳すれば、日本人にも大いに役立つはずだということで、当時のすぐれた洋学者が集められ、翻訳事業が始まったのです。

この仕事を最初に担当したのは、長崎通詞（通訳）出身の馬場佐十郎と仙台藩医の大槻玄沢です。しかし、この2名だけでは人手不足だとわかり、スタッフを充実するため新たに迎えられたのが、津山藩医の宇田川玄真でした。

それ以降、宇田川榕菴、箕作阮甫をはじめ、津山藩お抱えの多くの洋学者が、この翻訳事業に携わっています。冒頭で紹介した「津山との深い関わり」とは、こういうことだったのです。

国立国会図書館には、蛮書和解御用で実際に翻訳に使われたシヨメール百科事典（オランダ語版）の原本が、そして静岡県立中央図書館には、「厚生新編」の名でまとめられた膨大な量の翻訳原稿が、今なお大切に保存されています。それらの貴重な資料を借用・展示し、津山藩の洋学者たちの緻密な仕事ぶりを振り返ってみました。

会期中の毎週土曜日には、内容をより深く理解していただくため、学芸員による展示解説も実施しました。かつての洋学者たちの、気の遠くなるような翻訳作業に思いを寄せて、感嘆される方もいらっしゃいました。

ワークショップ

薬草・ハーブの説明会を開催!!



10月22日(土)に、資料館の「薬草の小径」で薬草とハーブの説明会を開きました。講師にお迎えしたのは、ボランティアでハーブの手入れをして下さっている矢北貞夫さんをはじめとするハーバルツヤマの皆さんです。津山市や周辺から多くの方が参加されました。





津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム

江戸時代の北方問題と洋学

●基調講演「江戸時代の日本は「帝国」だった」

「ヨーロッパから見た日本」

講師・東北大学東北アジア研究センター教授 平川 新先生

●対談

東北大学東北アジア研究センター教授 平川 新先生
明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部教授 岩下 哲典先生

津山市教育委員会と上廣倫理財団の主催による歴史文化フォーラム（文化庁・岡山県教育委員会後援）が、10月23日（日）に洋学資料館で開催されました。

基調講演をされたのは江戸時代史が専門の平川新先生です。先生は「北様聞略」環海異聞などの史料をもとに、江戸時代の日本はヨーロッパでは「帝国」と称され、一般的に「王国」よりもランクの高い国として認識されていたことを紹介されました。そして、その背景には、戦国時代の日本の軍事力の高さがあり、その認識ゆえに西洋列強からの植民地化を免れ得たことを解き明かされました。江戸時代の日本はいわゆる「鎖国」によって、閉じこもっていたイメージがありますが、その江戸時代像が変わるお話でした。

講演に続いて、平川先生と岩下先生による対談がありました。岩下先生は幕末維新の情報史を専門にされ、洋学資料館新館の展示構想策定委員もされた、資料館とは大変縁の深い先生です。対談では講演に基づいて江戸時代の対外関係などについてお話を深められたほか、震災で被災した歴史資料の救出のために、平川先生が取り組まれている活動についても触れられました。

参加された方は、メモを取りながら熱心にお話に聞き入り、終了後には活発に質問も行われていました。また、基調講演はNHKラジオ第二放送で全国に発信されました。

第24回史跡見学会 錦織・里八公文・久世の洋学史跡を訪ねて



11月20日（日）、24回目となる友の会の史跡見学会が実施されました。

今回は洋学資料館を集合場所にし、バスに乗りして一路美咲町錦織にある光後玉江の墓所へ。お参りして墓碑を確かめ、幕末から明治にかけて産科医として地域医療に生きた玉江の功績を偲びました。

続いて再びバスで里八公文（さとくもん）へ向かいました。ここには京都の解剖家小石家の私塾・究理堂で学んだ岩本徳太郎の墓所と医院跡があります。先に倭文保育所側の墓所にお参りし、続いて医院跡へ移動しました。医院跡は現在近光整形外科院長の近光利樹先生のご本宅となっていて、先生ご夫妻がご案内くださり、お茶のおもてなしもいただきました。

いてはつと一息つきました。

名残りを惜しみつつ真庭市久世の興善寺へ移動し、箕作秋坪の曾祖父・菊池正因、そして華岡流外科を学んだ杉山貫一の墓所をお参りしました。杉山貫一は華岡門人録に名前がありますが、あまり多くのことは分かっておらず、墓所も近年になって確認されたばかりです。

それから徒歩で牧穆（まきむく）中の生家跡を見学し、割烹旅館おかもとで昼食をいただきました。帰着後には、資料館で前日から始まったばかりの光後玉江の企画展の展示解説も行われました。あいにくの曇り空でしたが、充実した内容の見学会となりました。

友の会創立30周年を祝賀

記念レセプション開催

友の会は昭和56年に創立し、昨年30周年を迎えました。この佳節を祝し、11月13日（日）に津山国際ホテルで約150名の方が参加して、下山館長による記念講演会「友の会とともに歩んだ30年」とレセプションが開催されました。レセプションでは日下和夫会長の挨拶の後、田村芳倫教育長や箕作阮甫ご後裔の菊池慎一さんと箕作千代子さんからお祝いの言葉をいただきました。箕作阮甫がロシア艦隊やオランダ商館で食べた料理などの再現のコーナーも設け、参加された方は思い思いに楽しい時間を過ごしていました。



レセプション
30年分の思い出話に花が咲きました。



江戸時代の女性の医師といえば、よく知られているのはシーボルトの娘「オランダおいね」ではないでしょうか。この美作にも、江戸末期に活躍した、当時まだまれな女医がいました。現在の美咲町錦織で産科医を務めた光後玉江です。洋学資料館では、11月19日（土）より光後玉江の企画展を開催しています。

光後玉江は、1830（天保元）年、久米北條郡錦織村（今の美咲町）に生まれました。父・荊叔は江戸と京都で修業をした医師で、津山藩医の眞作阮甫とも交流がありました。それを示すように、玉江の資料の中には阮甫から荊叔に送られた書簡や、阮甫が翻訳した西洋の産科書「産科簡明」（写本）が残されています。

そんな父の影響を受けたのか、玉江も15歳で津山藩医の野上玄雄に入門し、医療と産科を学びました。28歳の時、錦織・興禅寺の戒般和尚に入門して剃髪、同年郷里で開業しました。

玉江が医師として活動したのは、ちょうど幕末・明治維新と時代が大きく変動していった時期です。明治政府によって医療制度が整備され、医師や医療のあり方は近代化していきました。

明治以降の玉江の活動を教えてくれるのが、玉江が処方した薬の記録「処方録」です。この資料を見ると、玉江の患者が近隣だけでなく現在の美作市や鏡野町、久米南町の辺りからも来ていたことが分かります。玉江は腕の良い産科医として信頼され、その評判は遠方まで伝わっていました。そして76歳で亡くなる前年まで、47年間にわたって産科を中心に地域医療に努めたのでした。

本展では興禅寺の全面的な協力をいただき、お寺に伝わる玉江の資料約30点をお借りして展示し、玉江の生涯と事績を紹介しています。来館された方からは、「自筆の資料の数々から玉江の息吹が感じられる」などの声が寄せられています。

本展は4月15日（日）まで開催していますので、見学がお済みでない方はぜひ足をお運びください。

12月10日（土）、洋学資料館のGENPOホールを会場に、日本英学史学会中国四国支部の研究例会が開かれました。同会の津山での開催は平成10年に続いて2回目です。今回は、洋学資料館の新築移転を契機に、再び津山で開催されることになりました。

支部長の香川大学教授竹中龍範先生の挨拶に続いて、下山館長の特別講演が行われ、宇田川家三代の業績や、中でも宇田川榕菴が語学に長け、英語も学んでいたこと、榕菴の考えた「珈琲」の当て字が日本で最初の英和辞典に収載されて広まったことなどを紹介しました。

研究発表では、山田宗八先生が宇田川興斎の『英吉利文典』や、津山藩医久原家に伝わるイギリス人医師ウィリスの手紙、さらに津山藩旧蔵の『英和対訳袖珍辞書』が近年2冊発見されたことから、津山で英学の習熟が進んでいたことについて熱くお話しされました。

最後に能登原昭夫先生が、現在編集を進めている『おかやま英学史』について触れ、岡山の英学史についてお話しして会を締めくくられました。

例会は市民の皆さんにも開放され、約45名が参加して熱心に聞き入っていました。夜には江戸時代に洋学者が食べたオランダ料理を再現して懇親会も開かれ、研究成果や資料について情報交換を行い、旧交を深めていました。

●プログラム

●特別講演 内科医学から自然科学へ

江戸蘭学界をリードした津山藩医宇田川家三代の活躍

津山洋学資料館長 下山 純正

●研究発表（1）

津山英学の源流をさぐる 蘭学から英学へ

山田 共学 道場 山田 宗八

●研究発表（2）

おかやま英学の「流れ」と「つながり」

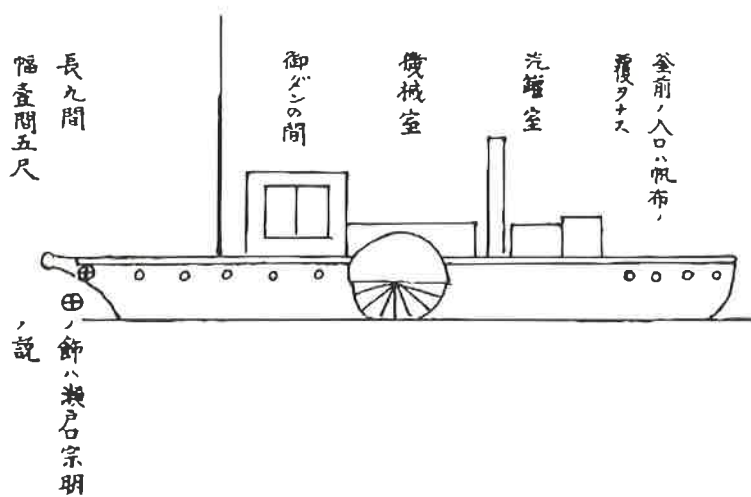
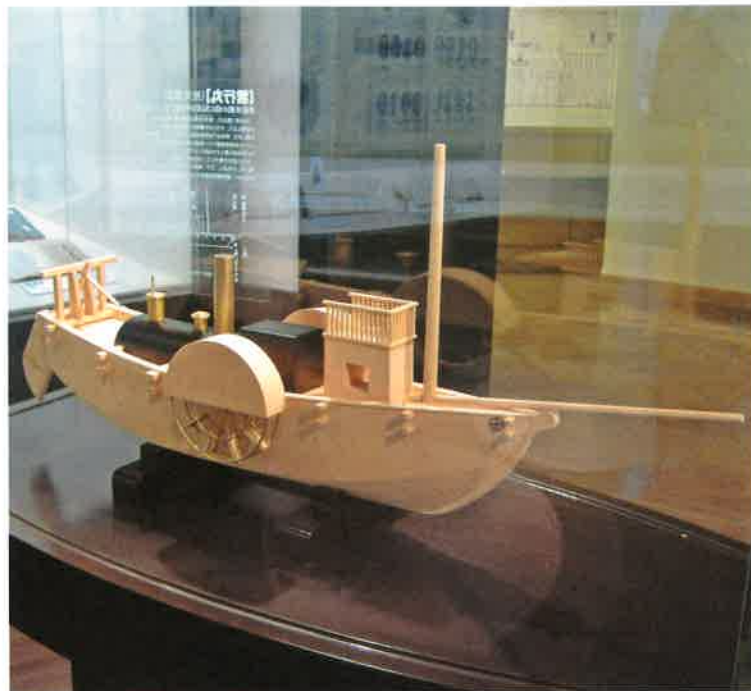
『おかやま英学史』出版をめざして

元山陽学園大学 能登原昭夫

資料館展示品から

日本初の蒸気船建造に
箕作阮甫も関わる

うんこうまる 『雲行丸』(推定模型)



▲雲行丸の模型(上)と参考にした『薩藩海軍史』掲載の見取図

黒船来航によって日本が開国に踏み切った翌年の1855(安政2)年、わが国初の蒸気船が完成しました。その船の名は『雲行丸』、薩摩藩が建造したものです。

1851(嘉永4)年に薩摩藩主となった島津斉彬は、若いころから蘭学的重要性を認識し、藩の富国強兵に努めます。蒸気船に強い関心を持っていた彼は、オランダ人ヘルダムの蒸気機関に関する著書を手入するとすぐ、その翻訳を津山藩医の箕作阮甫に依頼しました。阮甫の翻訳能力を高く評価していた

のでしょう。「水蒸船説略」の名で阮甫がまとめた訳文を参考にして、江戸の藩邸と国元の薩摩で、蒸気機関の製作が始まりました。

ペリー率いる黒船が日本にやって来たのは、ちょうどこの製作の最中だったのです。

日本人の多くは、この時初めて蒸気船というものを知ったのですが、すでにその当時、蒸気船をつくろうと苦心する人々がいたことを忘れてはなりません。そして、長い試行錯誤の末に江戸の薩摩藩邸で完成した蒸気機関は、越通船と呼ばれる洋式の小型木

造帆船に積み込まれ、1855年8月23日、隅田川での試運転に成功したのでした。その知らせを受けた阮甫は、きっと大いに喜び、感動したことでしょう。

日本の近代化を支えた「モノづくり」の原点ともいえる『雲行丸』の姿を、立体的に見ていただきたいの思いから、この模型を制作しました。詳しい設計図面が残っていないため、残された見取図をもとにおよその外観を推定したものです。

文：学芸員 小島徹



第66回文化講演会

「江戸時代の医学と津山」

講師 佐賀大学地域学歴史文化研究センター副センター長
佐賀大学大学院医学系研究科教授 青木歳幸先生

日本列島に厳しい寒波が到来していた1月28日(土)、第66回文化講演会を開催しました。

講師には、佐賀大学の青木歳幸先生をお迎えしました。先生は、洋学史・医学史の研究を地道に積み重ねられた方で、地域に根差した視点から洋学の歴史をとらえる「在村蘭学」研究の大家です。

ご講演では、江戸時代の医学の歴史を年代順にふり返り、蘭学の興隆と発達が日本の医学に与えた影響をふまえながら、津山ゆかりの蘭学者たちの業績をその中に位置づけて、その学問的な意義を明らかにされました。

当時の商家にも体重測定による健康管理の意識があったことがわかる興味深い事例を紹介されたほか、『解体新書』によって心と脳の結び付きや「精神」というものを日本人が初めて意識したこと、外科手術を実施したシーボルトによって本格的な臨床医学が日本にもたらされたことなど、それぞれの出来事が当時の日本の医学に与えた影響の大きさを、わかりやすく解説してくださいました。

そして、各地域の蘭方医の活動によって、幕末に起きる医療環境の変化の背景には、少しでも生活を良くしたいという庶民の願いがあったことを解き明かされたうえで、地域の特性や文化を後世に伝えていくことの重要性を強調して、お話を締めくくられました。

ご講演の準備のため事前調査にもお出でになり、当館の展示資料を紹介しながらお話しくださいましたので、聴講者の皆さんも理解を深めることができたのではないのでしょうか。



館長のクリス・スピールマイヤーさん（左）と、
コーディネーターのディック・ラートヒエフアーさん（中央）

オランダライデン市より シーボルトハウス館長、洋学資料館へ来館

11月1日（火）、洋学資料館の友好提携館であるシーボルトハウスの館長クリス・スピールマイヤーさんと、コーディネーターのディック・ラートヒエフアーさんが来館されました。

シーボルトハウスは、シーボルトが1832年から1837年まで居住していた建物で、日本で収集した膨大な資料をここに収集していました。2005年から財団法人を設立し、この建物を活用してシーボルトコレクションの常設展示のほか、日蘭交流の拠点として様々な展示や事業を開催しています。2010年の洋学資料館新館開館式の際には、当時の館長ハンス・カイパーズさんが来日、友好提携の調印式を行いました。

今回お2人は滋賀県大津市で開かれた第5回シーボルトコレクション国際会議のために来日され、忙しい日程の合間をぬって「ぜひ資料館を訪ねたい」と来館されました。

下山館長の案内で展示室を見学されたスピールマイヤーさんは「素晴らしい展示で感激した。今後さらに交流を進めていきたいと思う」とお話しされました。

学芸員実習や 職場体験学習を実施



和綴じに挑戦！

洋学資料館で実習や体験学習が相次いで行われました。

10月16日（日）から22日（土）まで八洲学園大学の小松義貴さんが学芸員実習を行いました。図書整理や資料の調査・目録作成など資料館での日常業務をお手伝いいただき、真剣に取り組んでおられました。

また、11月15日（火）と16日（水）にはチャレンジワーク津山っ子デビュー14で鶴山中学校2年生の森瑛正君が職場体験学習を行いました。森君は以前資料館を訪れた時のことが印象深かったので体験学習先に選んだとのこと。期間中は講演会用の資料作成のほか、実際に歴史資料に触れて本の和綴じにも挑戦してもらいました。

NEWS FILE 宇田川榕菴 ミュージカルに!!

9月18日（日）、第8回津山国際総合音楽祭で、宇田川榕菴を題材にしたミュージカル「不思議世界の榕菴センセイ」が上演されました。

脚本を手掛けたのは津山市在住の山田美那子さんです。公募で集った出演者の皆さんは、稽古の合間をぬって、資料館も見学されました。

会場の津山文化センターには650名もの観客が集い、舞台へ惜しめない拍手を贈っていました。榕菴に親しんでもらえる、良いきっかけになったのではないでしょう。



(財)洪庵記念会 資料調査を実施

10月6日（木）、財団法人洪庵記念会が運営する除痘館記念資料室の専門委員の皆さんが、除痘館関係資料の調査を行いました。

参加されたのは大阪大学医学部医学史料室の米田該典先生、堺女子短期大学名誉教授の浅井允晶先生、橋本まちかど博物館長の古西義磨先生、洪庵記念会事務長の川上潤先生です。津山には、緒方洪庵の設立した足守除痘館を經由して、1860（万延元）年に種痘館が設立されています。



津山ロータリークラブより掲示板など寄贈

津山ロータリークラブより、掲示板1台、駐車場のカエデ2本、子ども向けパンフレット2000部が資料館に寄贈されました。10月9日（日）に行われた贈呈式では、ロータリークラブの皆さんがカエデの植樹や周辺の清掃をされ、そして掲示板の除幕を行いました。山本俊彦会長は「子どもたちが地域に誇りを持ち、勉学に励む一助となることを願っています」と挨拶されました。



▼駐車場に大きなカエデを2本植樹してくださいました。



パンフレットの作画を担当されたのは津山市在住の竹内幸さんで、宇田川家三代や箕作阮甫についてイラストで分かりやすく説明されています。パンフレットは学校を通じて津山市内の小学校6年生に配布されました。

INFORMATION

平成23年度の催し物(予定)

企画展

4月	■企画展「彩生 - オランダ伝統の技と美 -」 ■2 ワークショップ「春桜〜チェンバロの音色と共に〜」 ■23 第65回文化講演会 講師: kinuko ヒンダローベンススタジオ主宰 永江絹子 先生 ■23 友の会総会 (休館日: 18・25・30日)	4/2~ ・オランダ伝統の技と美 ・彩生 ~5/29
5月	■28・29 友の会創立30周年記念研修バス旅行 (休館日: 2・6・9・16・23・30日)	
6月	■企画展「資料が秘めた物語」 (休館日: 6・13・20・27日)	6/11~ 資料が秘めた物語 ~9/25
7月	□4~8 燻蒸作業にともなう休館 ■31 ヒンダローベンス絵付け体験教室 (休館日: 4~8・11・19・20・25日)	
8月	■4 江戸時代の化学書からの再現実験 ■27 企画展関連研究報告会 (休館日: 1・8・15・22・29日)	
9月	(休館日: 5・12・20・21・24・26日)	
10月	■企画展「蜜書和解御用と津山藩の洋学者」 ■22 薬草・ハーブ説明会 ■23 上廣倫理財団歴史文化フォーラム (休館日: 3・11・12・17・24・31日)	10/8~ ・蜜書和解御用と津山藩の洋学者 ~11/6
11月	■13 友の会創立30周年記念セミナー ■20 友の会史跡見学会 ■企画展「幕末維新を駆け抜けた女医 光後玉江」 (休館日: 4・7・14・21・24・28日)	11/19~ ・幕末維新を駆け抜けた女医 光後玉江 ~4/25
12月	■10 日本英学史学会中国四国支部研究例会 (休館日: 5・12・19・26~31日)	
1月	■28 第66回文化講演会 講師: 佐賀大学大学院教授 青木歳幸先生 (休館日: 1~4・10・11・16・23・30日)	
2月	□15~19 点検工事作業にともなう休館 (休館日: 6・13~20・27日)	
3月	■友の会30周年記念誌刊行 (休館日: 5・12・19・21・26日)	

■企画展 ■催し物 ■講演会 ■友の会

刊行物のお知らせ

■『一滴』第19号を刊行しました。



目次

- ・シェイス著『オランダ日本開国論』付属資料Ⅱ「オランダ海軍日本分遣隊の歴史」
…小暮実徳 (1)
- ・箕作阮甫が添役で登場の蘭学小話二題
…野村正雄 (87)
- ・上野公園 人違いボードイン像の顛末—37年目の全面解決—
…石田純郎 (103)
- ・平成22年度企画展報告
地域に生きて
—蘭方を学んだ医師たちのくらし— (109)
日本が描いた異国—印刷博物館企画協力— (117)
- ・生誕180年記念企画展
美作の板垣退助と呼ばれた医師 仁木永祐 (130)
- ・開成所に在職した竹村萬次が発信した書簡
…土井康弘 (160)
- ・京都の蘭方医、越智崧が記した
随筆『ねさめのよまい』の翻刻
…土井康弘 (184)

第67回 文化講演会のご案内

「津山と静岡をむすぶ維新後の旧幕臣」

講師: 国立歴史民俗博物館 准教授 樋口雄彦 先生

日時: 4月下旬予定

ご利用案内

■開館時間/9:00~17:00

(入館は16:30まで)

■休館日/月曜日(祝祭日の場合はその翌日)

祝祭日の翌日・年末年始(12月27日~1月4日)

■入館料/

一般	高校生・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)

※() 内は30名以上の団体料金です。
※小学生・中学生は無料です。



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



●交通のご案内

- ・JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で10分、西新町下車徒歩2分
- ・中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分